（様式２）

学　校　関　係　者　評　価　報　告　書

（愛媛県立三崎高等学校）
学校番号（　37　）

評　価　実　施　日		令和　7　年　2　月　21　日（　金　）	
	氏　　名	所　　属　　等	備　　考
委員	黒川　信義	学校評議員	
	阿達　雅子	学校評議員	
	福田　正弘	学校評議員	
	竹上　正也	学校評議員	
	山本　宏貴	学校評議員	
	冨士田　邦義	学校関係者評価委員/三崎駐在所長	
	野村　雅英	学校関係者評価委員/三崎中学校長	
	黒田　立史	学校関係者評価委員/三崎小学校長	
	石本　　学	学校関係者評価委員/三崎高校ＰＴＡ会長	

評　価　・　提　言　等	提言等に対する改善方策等
１　教育活動について	
（１）本校の取組について	
・地域との積極的な関わりを持つ活動は素晴らしく、卒業後も生徒が地域に関わり続けてくれることを願っている。そのためには、地域の人々が関わりたくなる町づくりが必要だと感じた。自身も卒業生と交流を続けており、卒業後も地域貢献をしてくれていることを嬉しく思い、今後もこうしたつながりを大切にしたいと考えている。	・例年多くの地域イベントに参加している。特に今年度は、みさこう郷土芸能「巫女部門」が浦安の舞を奉納した。高校生の姿に感動し涙を流す人もおり、生徒の活動が地域に希望を与えていると実感した。今後も地域と交流しながら、生徒の成長を促す場を作っていきたい。
・後発の全国募集高校との競合になるので条件面のレベルアップは図りたいところ。給食提供数を増やして家庭の負担を減すのは効果あるかもしれない。	・常に先を見据えて新しいことに取り組みたいと考えている。給食の提供数は今年度の80食から来年度は90食になる予定である。
・「さだ岬爆誕」をはじめ、メディアやホームページで三崎高校生の活躍を拝見している。訳あって地元の学校に行きにくかった生徒が全く違う環境でリスタートできるきめ細かい指導ができるかが肝になると思う。特色あるカリキュラムで各生徒の進路指導よろしくお願いしたい。	・「さだ岬爆誕」は素晴らしい成果を上げた。三崎高校での学習や寮生活、地域との交流を通じて成長し、その結果が実を結んだと考えている。この生徒たちのみならず日々努力を重ねており、その積み重ねが少しずつ進路実現に繋がっている。
（２）特色入試について	
・今年から特色入試が始まって、三崎高校は集団討論を行うということで、とても特色を活かした内容であったと思った。入学生の確保は、来年度以降、八幡浜高校の統合や私立無償化など、世の中の動きを冷静に見つめ、早めの対応が必要かもしれない。	・本校では特色入試を魅力化の一環と位置づけ、スクールポリシーに基づいた評価方法を検討。その結果、個人面接15分と集団討論50分を含む特色入試を実施した。その結果、出願者が例年の20名程度から30名に増え、方針に合った生徒を確保できたと考える。
（３）新学科「社会共創科」について	
・社会共創科としての魅力を、しっかり情報提供していただくと、中学生にも響くと感じる。 ・社会共創科らしい講座がラインナップされていると思う。この学びを活かした大学進学（増えている社会共創学科へ推薦入試）や就職の実績ができれば志願者も増えるのではないか。	・昨年の段階から多くの中学校等で丁寧に社会共創科の説明を行った。２年生では３つのコース「地域探究」「人文探究」「科学探究」に分かれるが、生徒たちの多岐にわたる進路選択に対応できるようなカリキュラムを学校全体で組んでいるので、来年度以降も主体的に活動してくれると考えており、非常に楽しみな学校生活になると期待している。今後も様々な形で新学科の魅力を発信していきたい。
・今年度から社会共創科がスタートし、１期生として入学してきた生徒たちの意識の中で、社会共創科のカリキュラムを活かした進学先を考えていると先生方の中で感じられる部分はあるか。	

・コンテストやコンクールに参加されるのは良いが、例えば、プレゼンが上手だった、などで終わってしまうともったいない。持続可能な、次につながるようなことも生徒や学校全体で考えていく必要があると思う。	・生徒たちが行っている素晴らしい活動の一つの指標がコンテストだと考える。コンテストの出場だけで終わりでなく、進路や町の活性化につなげていけるような指導をしたい。
・地域みらい留学の導入により生徒数が増え、入学時の目標が生徒ごとに大きく異なる点が特徴的である。県外や町外からの生徒は悩みを抱えていたり、新たな自分を求めて入学することが多い。２年生後半以降は学校全体で学習レベルや偏差値向上に取り組む意識を持つことが望ましい。	・１人１台の端末活用や公営塾との連携、模試や検定への挑戦など、学習の選択肢が広がり、積極的に学習に取り組む生徒が増えている。この素晴らしい環境を発信し、生徒に真摯に向き合った指導をしたい。
２　学校評価及び学校運営の改善方策について	
（１）学校評価アンケートについて	
・多くの項目で前回より評価が向上しており、学校評価の結果や考察を確実に繋げることができていると感じた。	・どの項目も、ここ３か年で概ね数値の改善が見られた。保護者アンケートには、改善を要する事項が散見され、次年度に向け方策を考えている。
（２）自己評価表について	
・先日の伊方駅伝のように生徒や教職員が町内の様々な行事に参加していることにより、活力が上がっている。教職員チームを見ていて、横や縦のつながりがしっかりしており、リーダー、ミドルリーダーの活躍が大きいと思う。	・生徒に声かけをするように教職員同士も声をかけ合い、常にお互いを尊重しながら行動している。また、校内の業務分担でも改善が見られ、働き方改革も進んでいるものと思われる。
３　会の感想、その他	
・１人１台端末について、生徒から端末の劣化が進んでいると聞いている。更新する等の計画的な対応は考えられているのか。	・令和７年度は、故障したものは予備を使用して対応していくと聞いている。令和８年度からの県教委の方針を注視していきたい。
・三崎高校は県内の魅力化推進のトップランナーであるが、トップであり続けるにはさらなる向上が求められる。これまでのノウハウや実績を磨き、魅力化の推進につなげてほしい。	・新学科に替わるにあたり、丁寧に説明してきた。生徒が自ら課題を見つけ探究する学びが重要になっており、社会共創科はその礎を築く場と考えており、地元のリーダーを育成したいと考える。来年度は１・２年生が社会共創科となり、新しい学校文化が作られると思う。
・就職状況を見ると、多くの生徒が故郷に戻る傾向があり、学校存続には地域との交流や地域を巻き込んだ活動が重要となる。そのため、伊方町を「心の故郷」とし、住み続けたいと思えるような取り組みが求められる。また、近隣の長浜高校の躍進を踏まえ、三崎高校ならではの「オンリーワン」の魅力を追求してほしい。	・入学生にアンケート調査をしたところ、三崎高校に決めた理由は、「先生と生徒の雰囲気が良かった」が一番多かった。アンケート結果等の分析を進め、本校の魅力を言語化していきたい。
・三崎中学校の学校評価アンケートに、もっと高校と一緒に部活動をしてほしいという意見があった。中学生と高校生では力量の差があり迷惑をかけることもあると思うが、部活動の交流の機会を作っていただければと思う。	・中学校の統廃合が進む中、本校の部活動の役割も大きいと思う。入学者の確保にもつながるので交流を検討したい。